

**これは
ひどい**

区民の暮らしに背を向け

区政史上最大

中野区

血税ため込み363億円



有料は中野区だけ

23区

健康診査



「いのち」と書かれた紙を掲げて後期高齢者医療制度の中止・撤回を求める集会決議を確認する参加者(3/23井の頭公園)

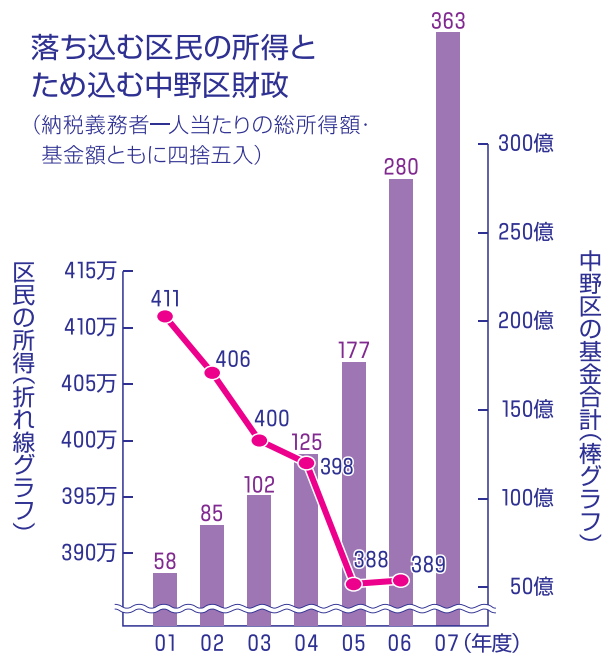
75歳という年齢を重ねただけで、別枠の医療保険に囲い込まれ、高い保険料と受けられる医療も制限されるといふ、世界でも例のない「差別」医療制度です。中野区では、この4月から、容赦なく保険料が年金から天引きされます。制度が知られるにつれ、不安と怒りの声が広がっています。自民・公明政権が、国民の反対の声を押し切って決めたこの制度。中止するしかありません。

早く死ねとさっさと去るが...

苦情・問いあわせが区に殺到

後期高齢者医療制度

落ち込む区民の所得とため込む中野区財政
(納税義務者一人当たりの総所得額・基金額ともに四捨五入)



自民・公明政権による「構造改革」で、大企業は空前の大もうけを上げるなか、区民の所得は減り、税金や国保・介護保険の負担は増えるばかり…。
こんなときこそ、中野区は「福祉の増進を図る」(地方自治法)という自治体としての役割を発揮すべきです。ところが、増収分を区民のために使わず、大規模開発目的の「ため込み」にひた走っています(上の図)。
これまでの最高額がバブル期の290億円(91年度)だったことを考えると、この異常さがわかります。

異常なため込み続ける

区政

区民

所得は減り、増税・負担増のなか